

1月12日は舞子高校にとって大きなイベントとなる「1.17震災メモリアル行事『阪神・淡路大震災を忘れない～21世紀を担う

私たちの使命～』兼ひょうごユース防災・減災ワークショップ」が開催されました。開会にあたって阪神・淡路大震災及び先の能登半島地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、黙祷を捧げました。私の挨拶は、私自身の避難所の経験から学んだ「感謝すること」「助け合うこと」の大切さに関することと本会の開催にあたって協力いただいた方々への感謝の気持ちを伝えさせていただきました。能登半島地震のニュースが入るたびに阪神・淡路大震災時のことが思い出されます。道路が遮断されており、復興への道のりは時間がかかるかと思いますが、できることを考え長期的な支援をしたいと考えています。

第1部はシンガーソングライターの石田裕之さんの自身の東日本大震災ボランティア体験トークを交えながらの追悼演奏でした。「上を向いてあるこう」を被災された方と合唱した経験、被災された方と相談しながら作詞作曲された歌を披露していただき心がとても温くなりました。第2部は米山正幸さん(株式会社ほくだん代表取締役)が自身の経験から減災についての教えとして「水を備える、避難場所を決める、家具の転倒防止、窓ガラスの飛散防止、スリッパと笛と懐中電灯を身近に、災害用伝言ダイヤルの利用」を伝えられました。最後に「自分の命は自分で守る」ということをおっしゃいました。

第3部は分科会です。分科会には講師として各方面から多くの方々に来ていただきました。平成7年1月17日地震のあった日にお生まれになった方をはじめ、神戸市消防局、神戸市危機管理室、神戸市水道局、垂水消防署+防災コミュニティ、関西国際大学など本校生が各グループに分れて勉強させていただきました。

第4部は避難所生活体験と舞子千人鍋(炊き出し)です。自衛隊の方にも来ていただき、給水車両を持ち込み、炊き出しをお手伝いいただきました。また、PTA役員の皆さんも炊き出しに協力いただき、1・2年生と防災ジュニアリーダーで来られた学校の皆さん、分科会の講師の皆さんに豚汁を振る舞っていただきました。グラウンドも比較的暖かく、29年前の避難所での炊き出しを思い出させてくれました。とてもおいしかったです。垂水区役所から避難所でプライベートが守られるように作られたテントや段ボールベッドもお借りして展示。段ボールトイレの製作方法や、かまどベンチでの火のおこし方と利用の仕方を示したのも展示。4年ぶりの舞子千人鍋に新たなスタートを切ることができたように思います。準備、協力いただいた皆さんありがとうございました。

災害が起こることは仕方がないにしても被害を最小限にとどめるためにできることはあります。行政と連携を深め、一人ひとりができることを考え、万が一に備えておくことの大切さを改めて学ばせていただきました。

